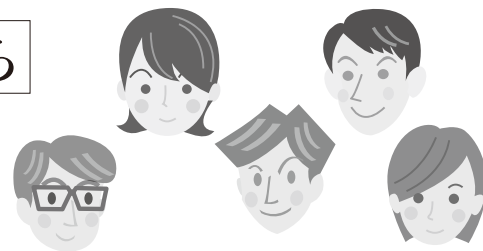


アンテレクトの仲間たち



国際コーチ連盟 (ICF) 認定資格取得者 座談会



銀座コーチングスクール (GCS) では、2014年10月よりGCS認定コーチ向けに国際コーチ連盟 (ICF) の認定資格取得を目的とした「ICF受験対策クラス」である「GCS特

修ワークショップ」を開催しています。その成果として、2016年3月現在、同ワークショップの修了生から8名のICF認定コーチが誕生しています。そこで今回は、ICFの認定資格取得に成功したコーチの方々にご協力いただき、ICF認定資格取得の意義や受験成功のポイント等について、お話を伺いました。聞き手はGCS認定委員長の森英樹です。

参加コーチ



山本 吉英コーチ
(外資系企業・社内コーチ)



山本 貴史コーチ
(GCS神戸校代表)



木村 伊澄コーチ
(アンテレクト管理本部長)



國井 あや子コーチ
(ワークショップ担当講師・
担当メンターコーチ)

ICF認定資格取得にチャレンジすること

森: まずはみなさん、国際コーチ連盟 (ICF) の認定資格取得、おめでとうございます!

一同: ありがとうございます。

森: ICFの認定資格取得にチャレンジしようと思った理由を、それぞれお聞かせください。

山本(吉): 私は外資系企業に勤務していますので、グローバル規模で知名度の高いICFの資格を取得することで、社内にもっとコーチングを広められたら、と思いました。

山本(貴): 国際レベルのコーチングを学び、セッション力を向上させたいと思い、チャレンジすることにしました。

木村: 自分のコーチとしての実力を確認したいということと、これからは国際的な資格を持つことも必要かと思ったことから、取得を目指しました。

森: ワークショップで講師、そしてメンターコーチングを担当いただいた國井あや子先生は、みなさんの大先輩にあたりますが、國井先生の場合はどうだったのでしょうか?

國井: 2006年にICFの資格を取得した当時、まだICFの知名度は低く、資格取得者数も少なかったですが、コーチとしてのクオリティの高さを求められるようになってきて、他コーチとの差別化をするにはグローバルスタンダードが必要と思い、チャレンジしました。まだまだ狭き門で苦労したのを覚えています。

「筆記試験では苦労させられました」

森: 申請にあたり、セッションの録音や書き起こし、ログの提出、Web上での筆記試験の受験等、さまざまなハードルがあるわけですが、特に苦労したことがあれば、教えてください。

山本(吉): 苦労したのは、最後のWebテストですね。日本語環境で受験したのですが、スムーズに理解できない翻訳文章、表現が多くて困りました。

山本(貴): 私もそうでした。



木村:日本語が微妙という点もありましたが、途中で中断せず、一気に解答を完了する必要があって、制限時間の3時間を確保することのハードルが高かったですね。実際には2時間くらいで終わることができましたが。

山本(吉):私は、途中で邪魔が入らないように、深夜に受験しました。

提出するセッションの録音・ログは複数候補から選択

森:セッションのログの書き起こしはいかがでしたか？

山本(貴):外注で対応したので費用はかかりましたが、大変ではありませんでした。

山本(吉):私も外注しました。Facebookグループで外注業者に関する情報交換ができたので、非常に助かりました。

木村:申請時に提出するセッションの録音やログは、最も出来の良いものを選択できることになっていますが、そうしましたか？

山本(貴):私は3人分のセッションから選びました。

山本(吉):私も2回録音しました。第三者に聞いてもらうわけですから、あまり内輪過ぎる話ではなく、第三者が聞いて理解できるかどうかという基準で選びました。書き起こしも2セッション分行なったので、その分、費用は余計にかかりましたけど(笑)。

コーチとしての実力アップを実感

森:ワークショップを受講したことは、申請要件を満たしたこと以外にコーチとしての実力アップにどのように役立ちましたか？

山本(貴):クライアントの話をもっとしっかり聴くことや、クライアントと共にいるような感覚を持つといった、コーチとしてのあり方が変わったと思います。

山本(吉):ICFの基準に沿って作られたGCSのカリキュラ

ムは、本当によくできていたんだなあ、というのを実感しました。申請方法についても、非常に手厚くサポートしていただいたのが良かったです。誰かコーチングを学びたい人がいれば、迷わずGCSをお奨めできるという気持ちになりました。

木村:GCSで学ぶストラクチャーに則ってセッションを進めると、すごく簡単にコーチングができるということを、改めて認識しました。ストラクチャーは、日本人がコーチングを学ぶのに合っていると思いました。

森:では最後に、特修ワークショップの講師とメンターコーチングを担当いただいた國井先生、講師・メンターとしての感想をお伺いしたいと思います。

國井:参加者の方々はみなさん、非常に意欲的でした。ICFが示す世界基準と、GCSでやってきたことの共通点が多くあることに、満足感を感じておられたようです。これを機に、さらにステップアップしていただきたいですね。

